

盛岡まちかど森林教室の取組

盛岡森林管理署

一般職員 ○河合 秀樹

一般職員 荒川 もも

主任事務管理官 川口 理

1. はじめに

国有林野事業の一般会計化を受け、国有林の民有林に対する貢献が今まで以上に求められている。国有林職員が民有林に貢献するためには、国有林で行われる事業だけでなく、広く森林・林業に関する取組に対して理解を深める必要がある。

また、若手職員には、森林・林業に関する知識がほとんどない状態で入庁した者もあり、森林・林業について学ぶ機会が欲しいという声があった。

以上の背景を踏まえ、盛岡森林管理署において、若手職員による森林・林業に関する自主的な勉強会である盛岡まちかど森林教室を開催した。この教室は一般に公開し、地域の方々が森林・林業について学ぶ機会を設けた。このことにより、地域との繋がりが希薄になりがちな森林管理署において、盛岡まちかど森林教室が地域と署との接点の役割を果たすことを期待した。

2. 盛岡森林管理署と地域との関わり

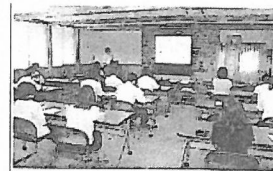
平成9年頃までは植樹祭を開催し、多くの地域住民や森林・林業関係者の参加があった。近年は小学校を対象とした森林教室、特定の地域の方々を対象とした治山工事の現地見学を開催している。しかし、以前と比べ一般の方々と盛岡森林管理署との接点は薄れてきている状況。そこで、地域と署との関係を取り戻すべく、盛岡まちかど森林教室の取組を進めた。

3. 盛岡まちかど森林教室の開催方法

若手職員3名が中心となり、四半期に1回程度の頻度を目安に盛岡まちかど森林教室を開催した。具体的な開催方法は

- ① 講演内容を検討し、外部講師を依頼する場合は講師と連絡調整
- ② 開催案内を HP・FAX 等で周知・広報
- ③ 実際に開催し、参加者全員にアンケートを実施

し、その結果を次回の講演内容に反映
以上のプロセスで開催した。



盛岡森林管理署の第1回「盛岡まちかど森林教室」は、17日午後4時半から盛岡市北山の同署で約20人が参加して開かれた。

開会に当たり、清水邦夫署長は「国有林が求められている使命の一つに、民有

林の道徳強化がある。そこで、民有林で取り組むを知ると同時に国有林の取組を「見える化」するため、民有林・国有林で特色ある活動をしている民間林関係者を招いて勉強会を開催したい」と盛岡ましかど盛岡青年部の取り組み聞く

盛岡森林管理署
盛岡ましかど森林教室

林の道徳強化がある。そこで、民有林で取り組むを知ると同時に国有林の取組を「見える化」するため、民有林・国有林で特色ある活動をしている民間林関係者を招いて勉強会を開催したい」と盛岡ましかど盛岡青年部の取り組み聞く

盛岡森林管理署
盛岡ましかど森林教室

[illegible]

H26.7.29 岩手林業新報記事 (第1回の紹介)

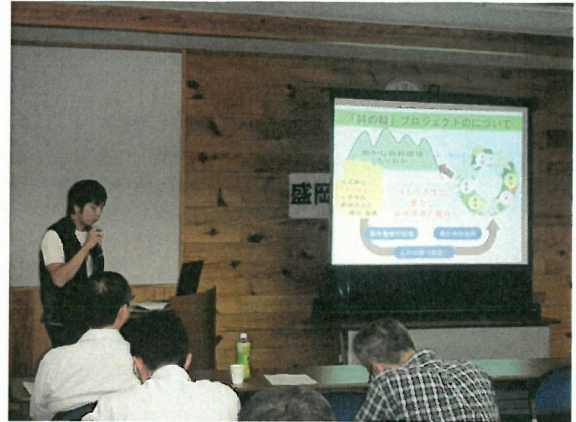
4. 盛岡まちかど森林教室の様子

2014年7月17日に第1回を開催した。署長による盛岡森林管理署の紹介の後、盛岡市森林組合青年部の高橋久祐氏に『『絆の輪』プロジェクト』の活動についてご講演いただいた。『『絆の輪』プロジェクト』とは、林内に放置されているスギの枝葉など、地域の素材を活かしたリース作りを通じ、一般の方々に森林・林業に関心を持ってもらうとともに、まちの活性化を行う活動である。当日の様子は岩手林業新報・林政ニュースでご紹介いただいた。

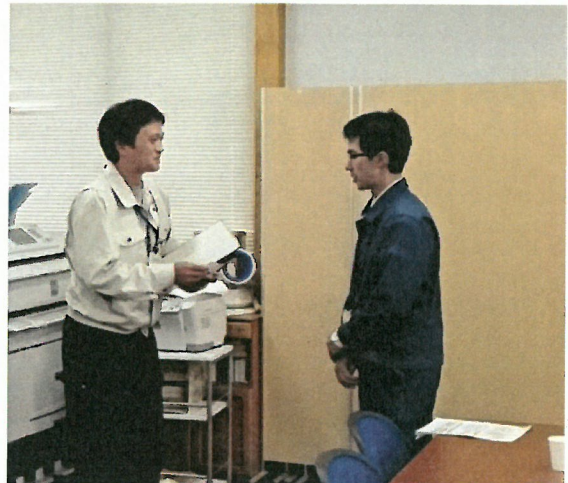
2014年10月2日に第2回を開催し、盛岡まちかど森林教室の企画運営メンバーである河合秀樹が、民有林補助施策の基礎について講演を行った。民有林補助施策は複雑だが、今後民国連携を進めていくにあたり、国有林職員も理解を深めておく必要があると考え、本講演を行った。具体的には、民有林補助の仕組み・森林環境保全整備事業・補助金の計算方法・森林経営計画・民国連携の取組(共同施業団地)等を解説した。当日は盛岡森林管理署近隣市町村の林務担当者にご来場いただき、民有林の実際の状況等について詳しくお話を伺うことができた。

2015年1月23日に第3回を開催した。森林総合研究所林木育種センター東北育種場の千葉信隆氏に、オーストリアのリーコ社において行われているコンテナ苗生産についてご講演いただいた。リーコ社で行われているコンテナ苗の生産方法・使用機器・ノウハウ等について、実際に現地調査を行った千葉氏より、写真や動画を交えて詳しく解説していただいた。当日は岩手県内の森林・林業関係者、特に苗木生産や研究に携わる方々に多数ご来場いただき、活発な意見交換が行われた。

2015年2月の時点で、盛岡まちかど森林教室は第3回まで開催した。



第1回の様子(高橋久祐氏の講演)



第2回の様子
(民有林の状況について意見交換)



第3回の様子
(千葉信隆氏の講演)

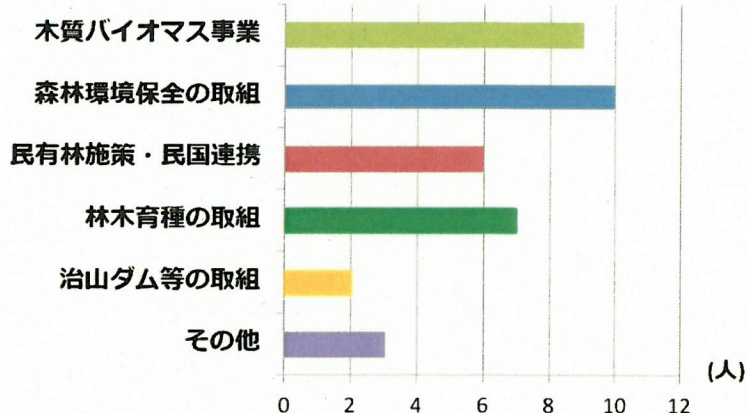


第3回の様子
(講演後の質疑応答)

5. 取組の成果

盛岡まちかど森林教室の取組を通じて、盛岡森林管理署職員が、普段行っている業務を離れて森林・林業について幅広く学習し視野を広げる良い機会となった。さらに、盛岡まちかど森林教室の運営を通じて、若手職員のスキルアップにつながった。また、民国連携に関わる方々をはじめとした、

多くの森林・林業関係者にご来場いただき、盛岡森林管理署との関係がより密接となった。来場者数は第1回が20人であったのに対し第3回は38人となり、ほぼ倍増した。さらに、重要だが見落とされがちなテーマについて深く掘り下げ、関係者と情報共有を図ることができた。



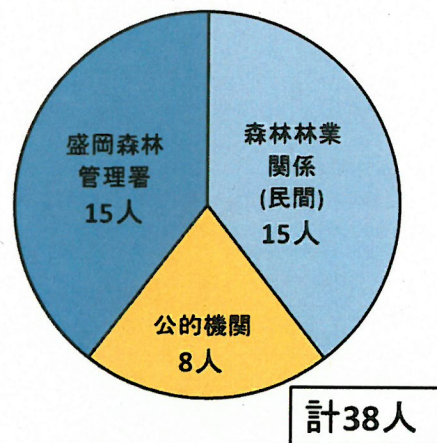
今後希望する講演内容のアンケート(第3回)

6. 現状と課題

参加者の多くが森林・林業関係者であり、一般の方々の参加の少ないことが課題として挙げられる。この要因としては、まず、盛岡まちかど森林教室において今まで取り上げた話題が専門的であったことが考えられる。しかし、一般の方々及び専門家である森林・林業関係者のニーズを、一度の講演で同時に満たすのは難しいと考えられる。この課題に対処するため、一般向けの講演内容を用意することを検討している。一般向けの講演内容として具体的には、森林・林業の入門講座、盛岡森林管理署管内の国有林(岩手山・姫神山・葛根田川源流

域等)の紹介を考えている。

また、一般の方々の参加が少ないもう一つの要因として、広報が不十分であったことが考えられる。今までは、盛岡森林管理署のHPや掲示板での告知・新聞における案内の掲載・教育機関や林業関係者等に対する案内のFAX送付を行った。しかし、これでは一般への広報が不十分であったと考えられる。そこで、今後は盛岡森林管理署近隣の市町村の広報誌に案内の掲載を依頼する等、より幅広く広報することを検討している。さらに取り上げる話題によって参加者のターゲットを絞り、積極的に広報することも検討している。



来場者の内訳(第3回)

7. 今後の展望

盛岡まちかど森林教室の取組は始まったばかりであり、試行錯誤を繰り返している段階である。今後も様々な話題を取り上げ、参加いただいた方の意見をフィードバックさせ、より良い盛岡まちかど森林教室の在り方を模索していきたいと考えている。